

## 令和 7 年 12 月定例会一般質問 要約版

---

質問者 中瀬 修 議員

【町水道施設の老朽化対策と更新計画について】

### 質問 1

議員：本町の水道事業は、人口減少による収益減少と施設老朽化という課題を抱えている。水道は重要なライフラインであり、自然災害への備えも含め、将来を見据えた持続可能な事業経営と老朽化対策の両立が求められる。本町の現状の取組と今後の経営戦略を問う。

町長：S40 年代後半から整備され多くの施設で老朽化が進み、更新や耐震化が必要な施設が多い。水道事業を持続的、安定的に供給するためには、施設の更新や耐震化を計画的に推進し、その財源を確保する必要がある。

### 質問 2

議員：今後、水道施設の現状と将来を見据えた老朽化対策は、安全な水供給の根幹をなす課題と考える。持続可能な水道事業の確立に向けた取組について問う。

上下水道課長：町内の水道管のうち、耐用年数 40 年を超えた管路は約 170km（62%）を占める。また、西別府浄水場の水処理設備や浄水池、複数の配水池については、現在の耐震基準を満たさず更新や耐震化が必要な状況。これらの施設を更新せずに使用し続けた場合、漏水や断水の発生、災害時の被害拡大につながるおそれがある。

### 質問 3

議員：更新が必要な管路や主要施設の老朽化の現状、並びに施設更新の計画について問う。

上下水道課長：R8 年度から R17 年度までの 10 年間を計画期間とする水道事業経営戦略を更新した。この計画に基づき、老朽化した水道管については毎年概ね 3km ずつ更新を行うとともに、西別府浄水場の主要設備の更新や配水池の耐震化を段階的に進めていく方針である。病院や避難所等への施設につながる管路で漏水が多い箇所の老朽化が激しいところを更新したい。

#### 質問 4

議員：計画的な更新に必要な財源としての国庫補助金や企業債などを活用した具体的な財源確保の計画について問う。

上下水道課長：R8 年度から 17 年度までの 10 年間に総額で約 29 億円を見込む。財源は、国庫補助金、企業債（借入金）、一般会計からの出資金、水道事業の利益剰余金など確保する計画。国庫補助金を 10 年間で 1 億 7,500 万円、企業債を約 2 億 3,000 万円等で財源を確保したい。

#### 質問 5

議員：水道事業を維持するための具体的な経営戦略について問う。

上下水道課長：給水人口の減少に伴い水道料金の収入は年々減少すると見込む。計画最終年度の R17 年度の水道料金収入は、令和 6 年度と比べて約 8 % 減約 2700 万円減少と予測。

#### 質問 6

議員：将来的に料金改定の必要性があるのか。経営努力や国の支援策などを最大限活用しながら、中長期的に料金改定の必要性が出てくるのか、現時点での考えも伺う。

上下水道課長：主要な施設が更新時期を迎えていること、近年の物価高騰による費用増加、給水人口の減少に伴いまして水道料金の収入は年々減少が見込まれる状態であり、今後の水道事業の経営はますます厳しくなるものと認識している。

#### 質問 7

議員：人口減少と施設の更新費用増大が懸念される中で、更新費用と収益を勘案し、現在の料金体系が将来の健全経営を担保できる適正な水準にあるかどうかについて認識を伺う。

上下水道課長：漏水対策として配水管の更新、音聴調査による漏水調査、また、昨年度、人工衛星データを活用した漏水調査を行った。一定の成果は出ているものと考えるが、有収率を引き上げて経費を削減するまでには至っていない。新たな取組として、水圧コントロールによる漏水対策を考えている。水圧が必要以上に高いエリアが多くあり、漏水発生の一因と考えられる。新たに減圧弁を設置し、水圧コントロールをし漏水発生の抑制及び漏水水量の削減を図りたい。

質問 8

議員：災害への備えと水道事業の広域連携化について問う。

上下水道課長：災害時の初動体制や標準的な行動内容等を定めた上下水道施設危機管理マニュアル及び業務継続計画を策定している。

【立地適正化計画と町運動公園再整備基本計画について】

質問 9

議員：立地適正化計画と川南町運動公園再整備について問う。

町長：2027 年に宮崎県で開催される国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会を見据え、川南町運動公園の再整備を推進していく。

質問 10

議員：再整備の内容と立地適正化計画の目指すビジョン（未来像）に、子育て世代や高齢者がより利用しやすい公園とするための考えについて問う。

建設課長：野球場や陸上競技場などのスポーツ施設の再整備に加え、遊具や多目的広場を整備することで、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用しやすい憩いの場を創出するものである。健康づくりや世代間交流の促進、利用者数の増加が期待される。

質問 11

議員：多目的広場の活用法について問う。

建設課長：ハード整備だけでなく関係機関とも協力し、ソフト事業も行うことで、公園利用者、子供から高齢者までの幅広い年代の交流人口の増加につなげたい。

質問 12

議員：町運動公園再整備基本計画が令和 6 年から令和 10 年までの中で、これまでの整備状況について伺う。

建設課長：R6年3月にパンダ公園内の遊具補修と塗装、R6年度に野球場放送室、観客席の補修、野球場ダグアウト内整備、令和7年度中に屋根つき運動場の南側駐車場整備（20台から57台へ増設）を行う。

質問 I 3

議員：子育て世代や高齢者がより利用しやすい公園とするための考えについて伺う。

町長：遊具や多目的広場も再整備し子供から高齢者までの幅広い年代の利用しやすい憩いの場の創出を推進し、多世代の住民の交流機会を増やし、利用者数、交流人口の増加を目指したい。

質問 I 4

議員：町営プール跡地の再整備計画について伺う。

建設課長：R8年9月開催の国スポのリハーサル大会に間に合わせたい。国スポリハ大会も本大会と同じ条件で実施してもらいたい。運動公園プール解体工事は、12月補正で予算を提案し、繰越明許として令和8年5月に完了を計画。運動公園多目的広場整備工事、国スポウォーミングアップ広場は、ゼロ債務負担行為とし、3月議会で本契約を計画している。令和8年8月の工事完了を目指す。工事請負費は令和8年度当初予算で提案する予定。

【運動公園のネーミングライツ（命名権）について】

質問 I 5

議員：町運動公園のネーミングライツ（命名権）について伺う。

町長：ネーミングライツは必要。運動公園の整備が進み、完了するというときに考えるべきと考える。導入を前向きに検討たい。